



令和7年度 公益社団法人 福岡県美術協会定時総会報告

令和7年 6月21日(土) 14:00—16:10
福岡リーセントホテル

6月21日(土)梅雨曇りの空の下、福岡リーセントホテルに会場に、令和7年度公益社団法人福岡県美術協会定時総会が開催された。正会員総数755名に対し、出席者151名、委任状参加者388名、正会員総数の過半数に達する合計539名の出席を得て、定款第18条第1項の定足数を満たし総会は成立。午後2時、倉橋専務理事の開会宣言で定刻に開会。まず、令和6年度の逝去者に哀悼の意を込め黙祷が行われた。その後、村里豊伸事務局長の司会、嘉村知久事務局参与のアナウンス補助、洋画部田浦哲也特任事務局員、写真部小林敏夫特任事務局員及び洋画部野出員子会員の場内誘導補助により総会は進められた。

小田部黄太理事長の挨拶では、昨年度の総括と令和11年予定の新美術館オープンに向けての展望等が述べられた。続いて来賓及び協会顧問の紹介。代表して福岡県教育庁教育振興部社会教育課比山裕隆課長、福岡県立美術館明永好弘副館長及び今林久福岡県議会議員よりご挨拶を頂いた。

議事に先立ち、議長を務める小田部理事長より、彫刻部山本隆明理事、工芸部太田剛速理事に議事録署名名人が委嘱され、書記には洋画部の重富貞美事務局員、彫刻部の原谷明広事務局員、記録撮影は写真部の植松佳春広報委員が任命された。

続いて議事に入り、左記の通り進められた。

【報告事項】 令和6年度事業報告及び法人管理報告

【審議事項】 令和6年度決算の承認↓承認

【審議事項】 理事及び監事 選任の件↓承認

【報告事項】 令和7年度事業計画及び収支予算

続いて、今回書部のみ実施された選挙により選任された書部新部会委員が紹介され、併せて書部のみ選挙が行われた経緯についても説明がなされた。

次に、令和7年度新会員32名が紹介され、一言ずつ抱負が述べられた。

会員在籍40年表彰では対象者5名が紹介され、代表で稲垣頼子会員が挨拶を述べられた。

暫時休憩後、休憩中に開催された理事会で選定された宇田川宣人新理事長をはじめとする新三役と併せ、新理事及び新監事並びに新顧問が紹介され、事務局長の交代も伝えられた。

倉橋専務理事の開会宣言と共に午後4時10分、総会は無事終了した。

(文責・村里前事務局長)

福岡県美術協会定時総会に寄せて



福岡県教育庁教育振興部
社会教育課長
比山 裕隆

公益社団法人福岡県美術協会におかれましては、日頃から福岡県美術展覧会をはじめ、県内で各種の展覧会を開催されるなど、本県における文化芸術の振興に多大なる御貢献をいただき、心より感謝を申し上げます。

特に、今年度の福岡県美術展覧会は、80回目という節目の展覧会となります。県民の方から多くのすばらしい作品が出品されるこの展覧会が長きにわたり開催できるのも、皆様のためみない御尽力によるものであり、改めてお礼を申し上げます。

また、会員の皆様におかれましては、平素の創作活動はもとより、会員相互の研鑽や県内各地における普及活動などに御尽力いただいていることに対して、深く敬意を表します。

福岡県美術協会定時総会を終えて



公益社団法人
福岡県美術協会 前理事長
小田部 黄太

本協会の令和7年度の定時総会が、6月21日(土)14時より、福岡リーセントホテルにおいて開催され、特段の問題もなくすべての議案が承認され、滞りなく総会を終えることができた。

今年は2年に1度の理事の改選の年である。理事会からの提案通り理事・監事の承認をいただいた。特筆すべきは、外部理事の西章理事の退任に伴い、8年間外部監事を務めていただいた篠原俊前監事(税理士・公認会計士)に新たに外部理事をお願いすることとした点。そしてその後任の外部監事に奥田貫介顧問弁護士にご就任いただいた点である。篠原氏は公益社団法人の運営にも明るく、県

昨年度は、長年にわたる文化芸術の振興への貢献が評価され、副理事長の鐘ヶ江勢二様が地域文化功労者文部科学大臣表彰を受賞されたほか、理事の宇田川宣人様、元理事の江藤紀世様が福岡県地域文化功労者表彰を受賞されました。心よりお祝い申し上げますとともに、今後ますますの御活躍をお祈りいたします。

福岡県美術協会におかれましては、本県のアートの交流の場として公式SNSを開設し、年間を通して協会の活動や会員の個展・グループ展の情報を発信されるなど、積極的に広報活動に取り組んでおられます。これにより、幅広い世代の人々の創作意欲が喚起され、県民の皆様が文化芸術に触れる機会がさらに広がっていくことを期待しております。

県教育委員会としましては、福岡県美術協会の皆様と一層連携させていただきながら、本県の文化芸術の普及と発展に向けて取り組んでまいります。今後とも、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、福岡県美術協会のさらなる御発展と、会員の皆様方ますますの御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

下の企業にも人脈が多い、更に茶道や能楽等の文化にも造詣が深いという、まさに美術協会にとって力強い人物である。理事として存分に手腕を発揮していただきたい。また、奥田弁護士はこれまでも顧問弁護士として様々な法的な相談に丁寧にご対応いただく心強い存在であるが、更に外部監事として理事会にも出席いただくこととなり、実に頼もしい体制となった。

さて、私事であるが、8年間理事長を務めてきたが、今回理事を外れることとした。この8年間で公益社団法人としての規定などの整備、県展の活性化、コロナ対応等、様々な取り組みに右往左往しつつ微力ながら取り組んできたが、まだまだ多くのことが道半ばであり忸怩たるものもある。しかしながら、新県立美術館へ向けた県展の新たな取り組みに向け、人心の一新は急務である。

今回、宇田川新理事長はじめ新体制には大いに期待したいと考えている。会員の皆様にも大いにバックアップをお願いしたい。